

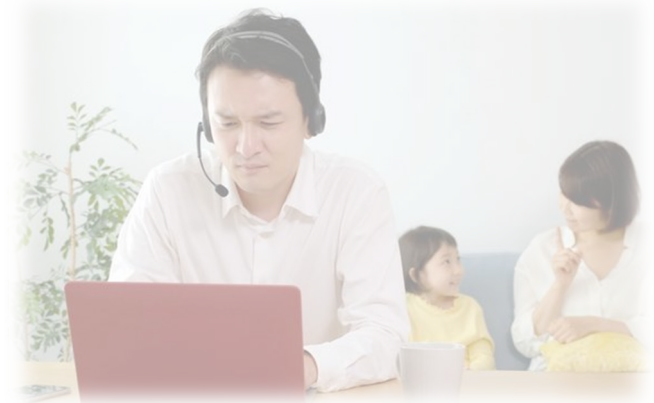
新しい働き方を実現する
移動型オフィスのデザイン概念提案

2021-2022

海老澤PT2018 修了生コミュニティ

2020年、コロナ禍という未曾有の出来事により、私たちの日常は激変しました。感染拡大の原因とされる「密集」、「密接」、「密閉」の三密を避けるため、よりよいコミュニケーションの手段としてこれまで当たり前に行っていた、「みんなで集まる」、「対面で会話をする」といった行動が制限されるようになりました。

職場においても、「在宅勤務」や「テレワーク」が推奨され、会議や商談もオンラインミーティングツールを使った「リモート会議」、「リモート商談」が一般的となり、私たちの働き方や職場でのコミュニケーションの形が大きく変化しました。



一方で、付け焼刃的に導入されたテレワーク制度により、「最適なワーキングスペースの確保」や「リモート化によるコミュニケーションの不足」、これらに起因する「生産性の低下」といった、企業および企業で働く人々にとっての新たな課題が生まれています。

私たちは、この現状における個人のテレワーク環境の不十分な状況と、潜在的に進んでいたマイカーにおける移動から空間への価値観の変化に着目し、新しい移動型オフィスを活用した場所を選ばない自由な移動による新たな働き方を提案します。



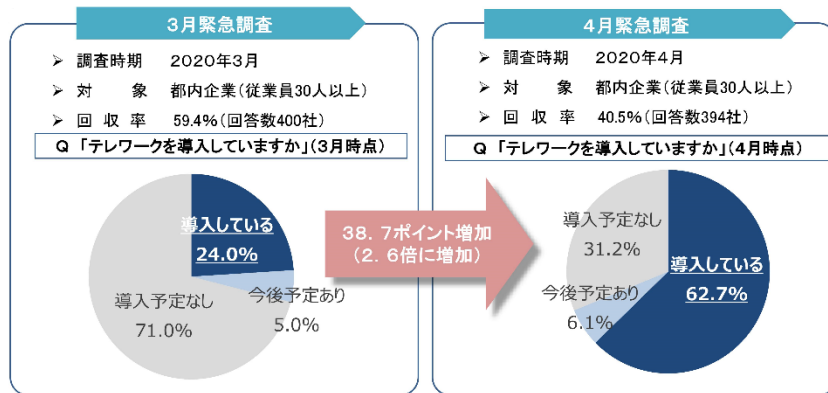
- 本資料の詳細については「東京都立産業技術大学院大学研究紀要 第15号」に掲載されています。

https://aiit.ac.jp/documents/jp/research_collab/research/bulletin/2022_bulletin.pdf

コロナ禍で加速したテレワーク

一部の企業を除きなかなか進まなかったテレワークの推進が、コロナ禍により一気に加速した
テレワークが加速した理由

- 職場での三密回避
- 通勤による公共交通機関利用のリスク軽減
- オンライン会議ツール、VDIなどの普及



<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2020/05/12/10.html>

コロナ前

働き方改革法案

大企業

テレワークを制度化するも、社員は制度を利用しにくい

中小企業

費用対効果など考えると、テレワークの制度化は困難

コロナ禍

COVID 19

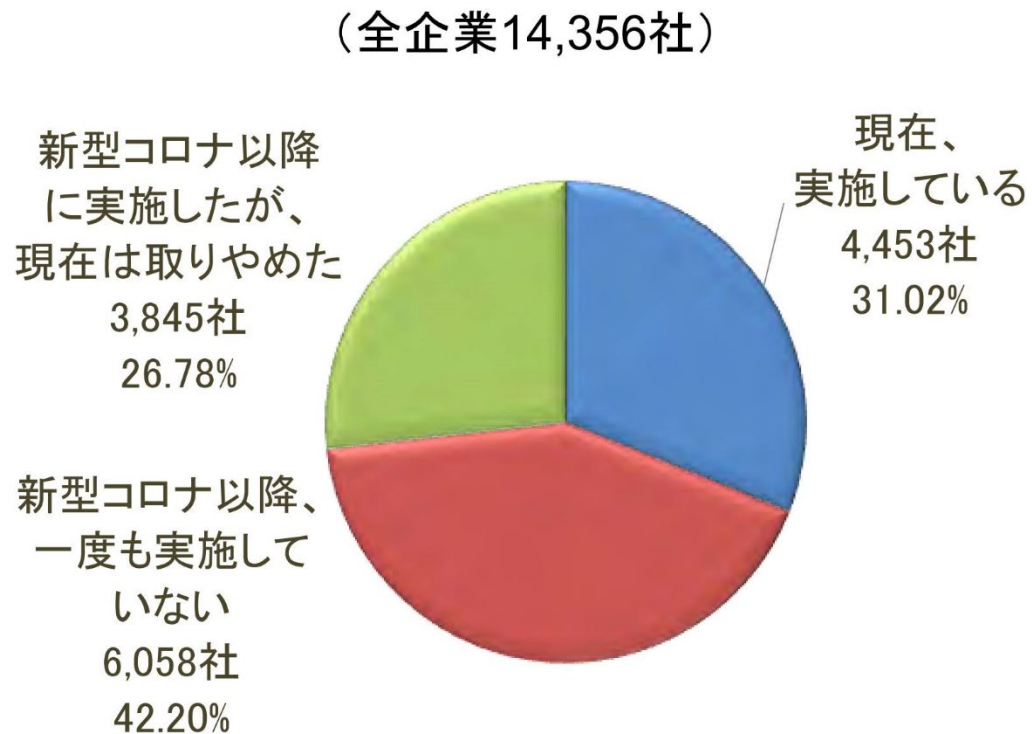
- 職場での三密回避
- 通勤による公共交通機関利用のリスク軽減
- オンライン会議ツール、VDIなどの普及

テレワーク制度の利用を推進

テレワークを急遽制度化し、推進

テレワークの課題

第6回「新型コロナウイルスに関するアンケート」 調査



東京商工リサーチ 2020年7月14日

テレワークで生産性が低下する理由

1. 通信・PC環境による生産性の低下

VDI利用によるレイテンシー、Wi-Fi環境が悪い、モニターが小さいなど

2. メンタル面での生産性の低下

オンとオフの切り替えが難しい、外出できないことが苦痛、人とのコミュニケーションがとりにくい など

3. 就労環境による生産性の低下

机が狭い、自宅に仕事部屋がない、生活音が邪魔になる など

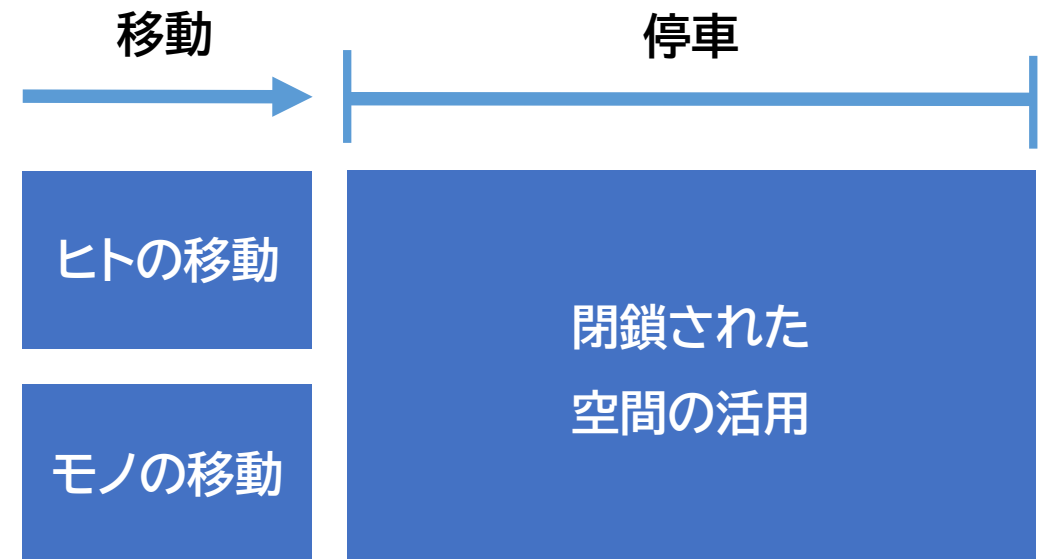
駐車場パパの出現とマイカー価値観の変化

「駐車場パパ」が増殖中! (雑誌Fridayより)

在宅勤務を強いられるも、自宅に自分の部屋がなく、駐車場のマイカーにパソコンを持ち込んで仕事をする人が増えている



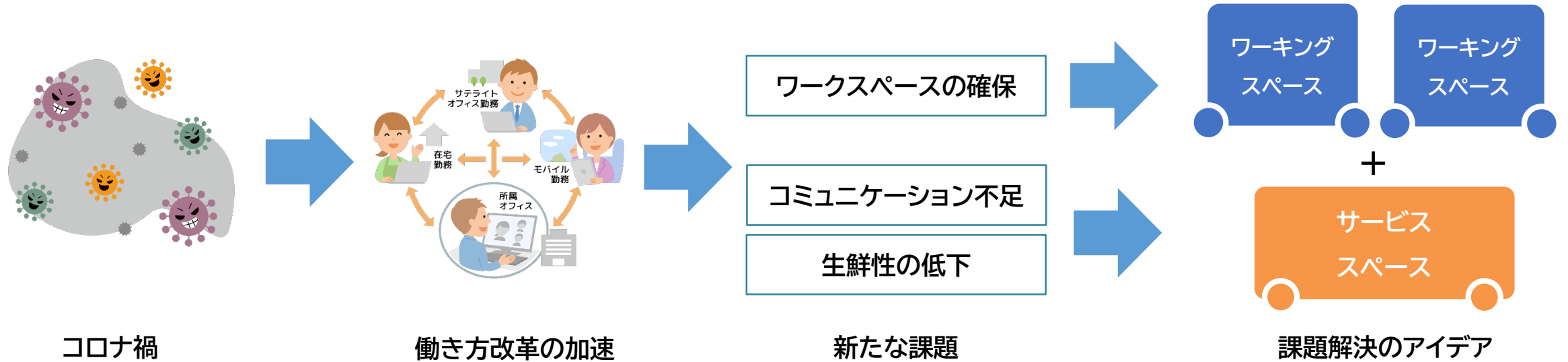
マイカーの価値



潜在的な価値

- 駐車場パパ
- 車中泊
- 電話ボックス
- 雨宿り
- ロッカー
- カラオケボックス

解決すべき課題のまとめ



駐車場パパ



クルマをワーキングスペースとして利用

ワーキングスペースユニット



移動もできるワーキングスペース

ワーキングスペースにおける課題とワーキングスペースユニットの提案

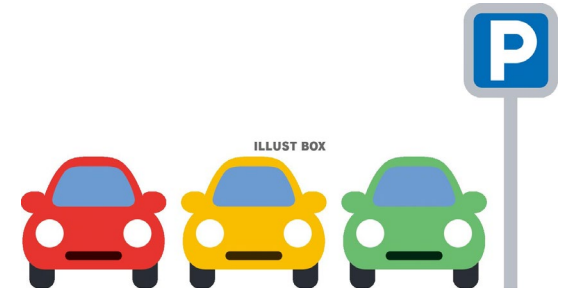
ワーキングスペースに移動の自由を与えることで…



どこでも仕事ができる



移動によるアイデア創出の活性



必要に応じて集合

超小型モビリティに新たな価値を



手軽に移動、省スペース



軽自動車よりコンパクト



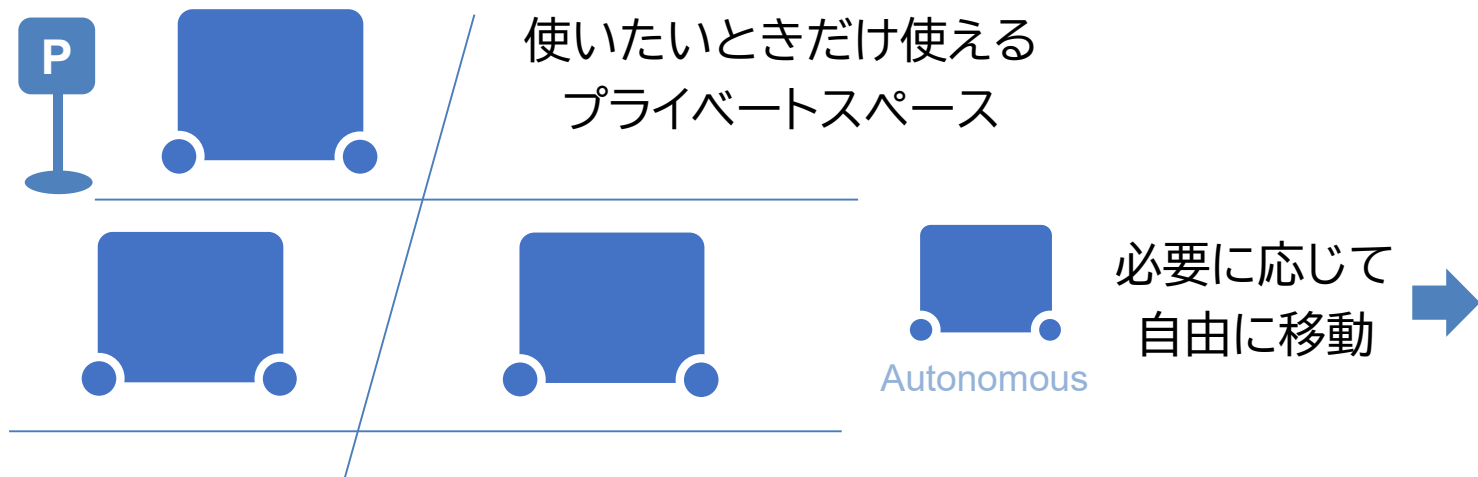
移動もできるプライベート空間

ワーキングスペースユニットの基本コンセプト

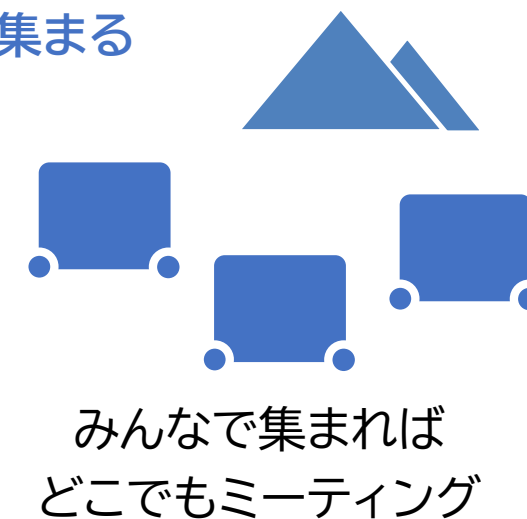
所有する



シェアリング



集まる



ワーキングスペースユニットのデザイン

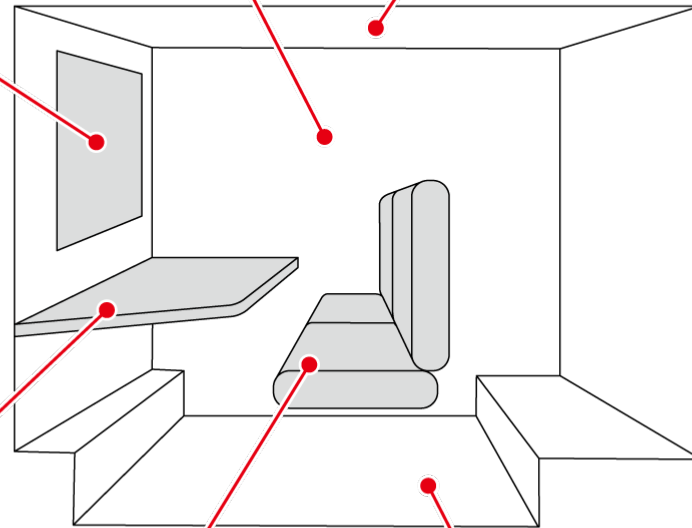
室内イメージ

右側面にドアや窓は設けない、壁面にはカレンダー、ホワイトボードなどを設置できるようにする
ドアは、日本の左側通行に配慮し、左側面だけに設置

プロジェクター投影可能なスクリーン
走行時は、車外カメラの映像や地図、走行情報などを投影

テーブルの広さは
900mm×700mm程度

リクライニング、シートスライド可能な2分割ベンチシート



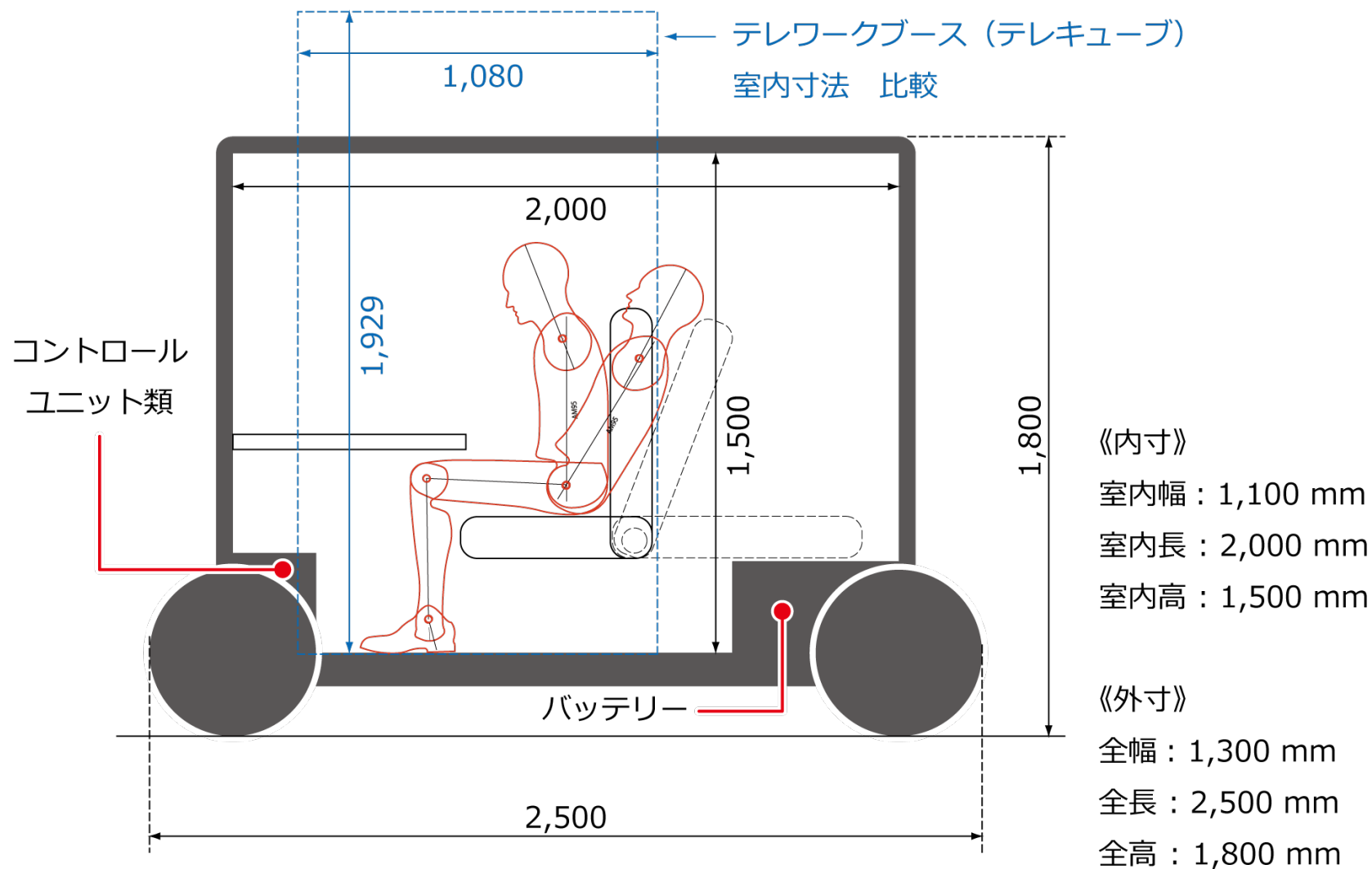
天井全体照明

- クルマ < 部屋という考え方から、クルマのような空間全周の窓は設けず、日照の影響を受けにくくする
- 基本装備は最小限に留め、収納やユーティリティは、ユーザーが自由に持ち込んでレイアウトする

床は低床のフラットフロア

ワーキングスペースユニットのデザイン

サイズイメージ



コミュニケーションにおける課題とサービススペースユニットの提案

オフィス内の主な共有設備

ワーク	<ul style="list-style-type: none">● ミーティングルーム, 作業場● コピー, プリンター, 大型文具
リラックス	<ul style="list-style-type: none">● 休憩室, 食堂● トイレ, 給湯, 炊事場
インフラ	<ul style="list-style-type: none">● 発電, 給電設備● Wi-Fi基地局, サーバー等

- 常時必要なわけではないが、いざというときになれば不便
- テレワークでは利用することができない(利用するためにはオフィスに赴かなければならない)
- コミュニケーションの形成に重要な役割を果たしている



それぞれの機能をユニット化し、移動させることで、自由に組み合わせが可能
オフィスに赴くのではなく、オフィスに赴いてもらうという新たな発想

サービススペースユニットの基本コンセプト

オフィスレス企業



固定のオフィスを持たず、
必要最小限のユニットのみ保有

オンデマンドオフィス



必要に応じ、移動させて即席オフィスを
設営

レンタル・リース会社



各種サービスユニットを
レンタル・リース
新たなユニットを設計・開発

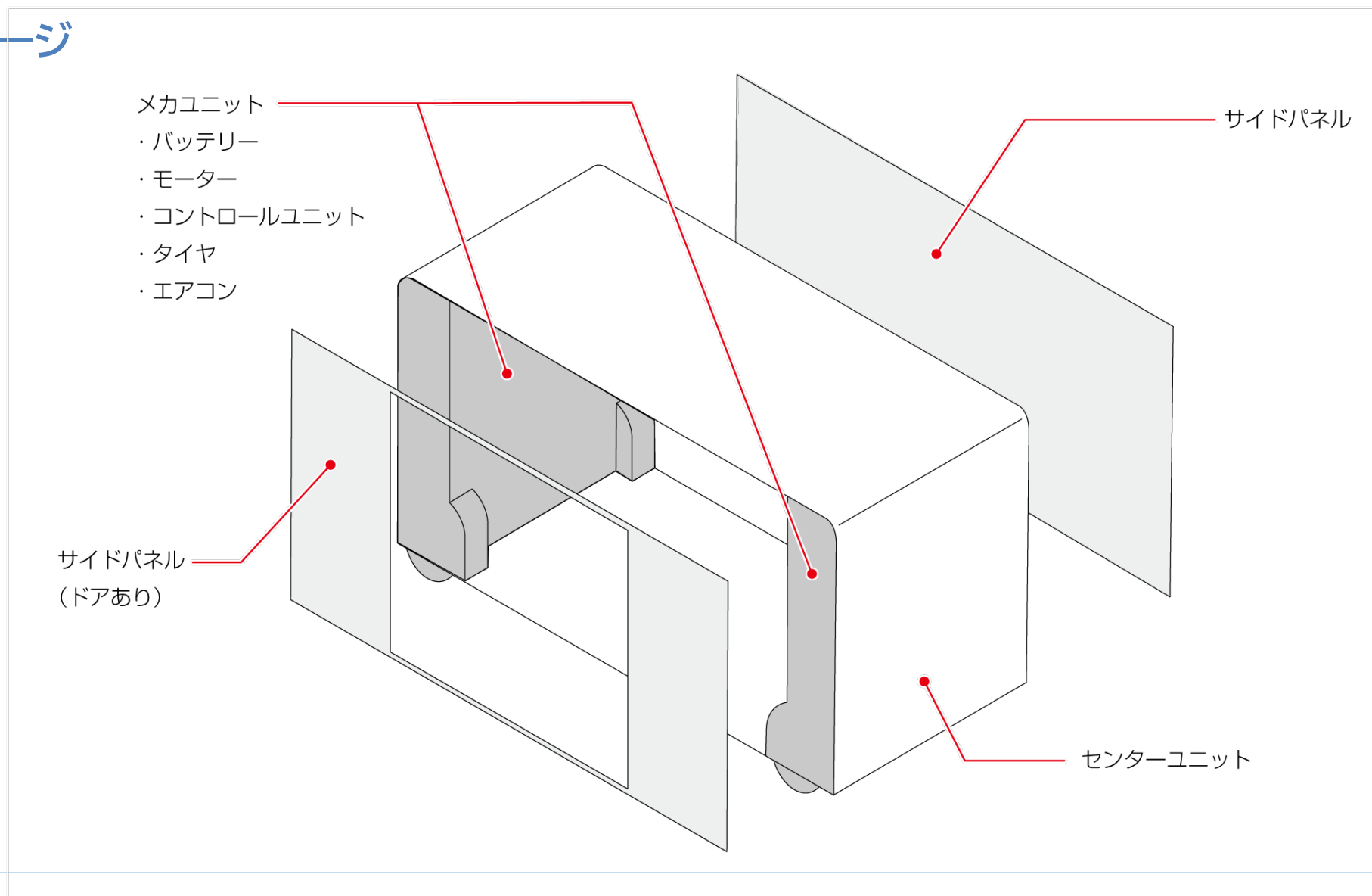
テレワークパーク



テレワーカー向けに
共有スペースを提供

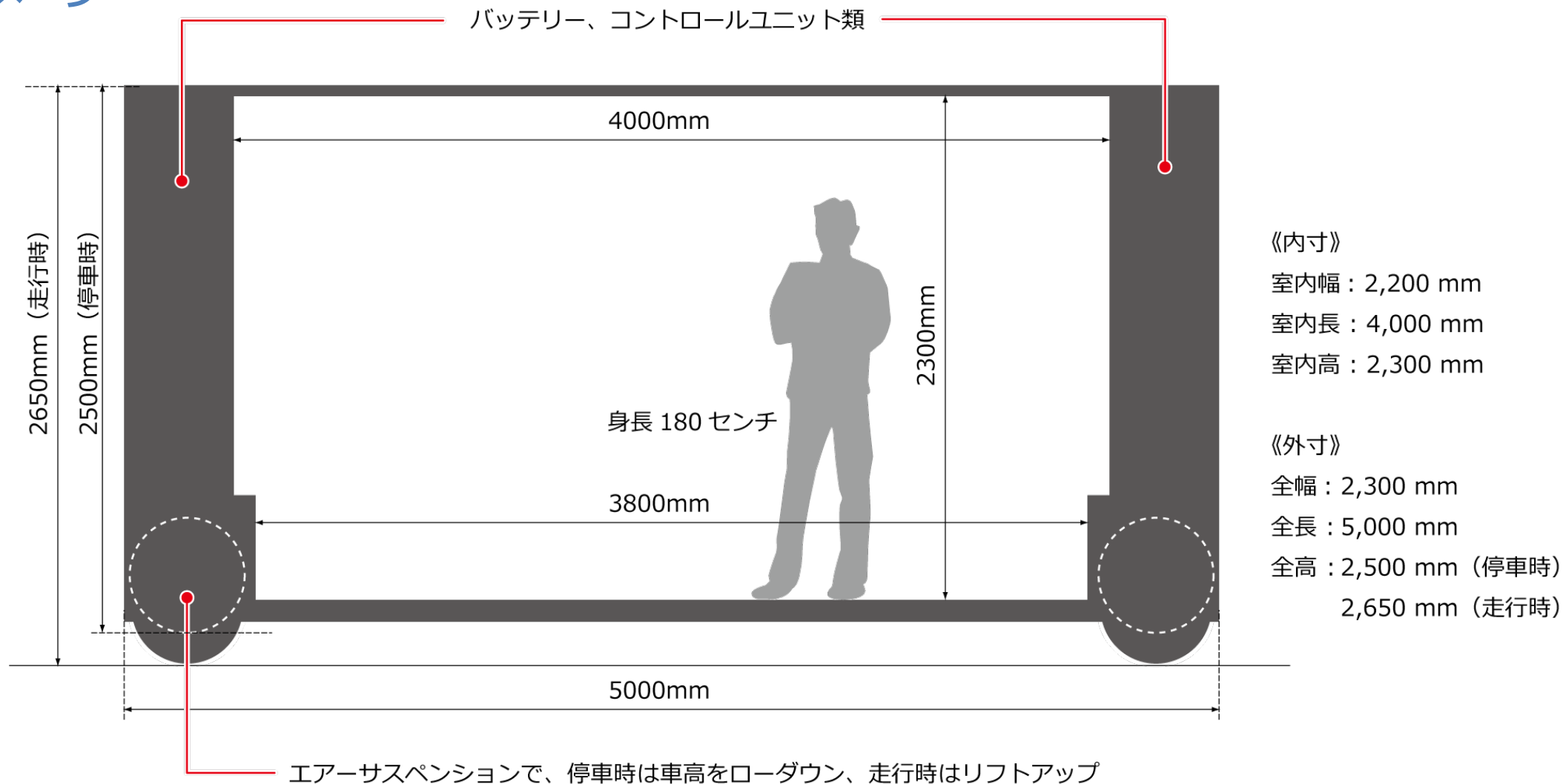
サービススペースユニットのデザイン

構造イメージ



サービススペースユニットのデザイン

サイズイメージ



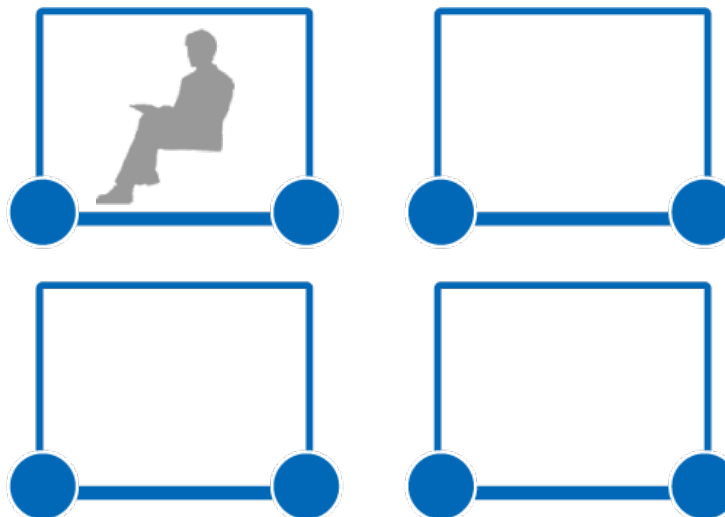
新たなワーキングスタイルの可能性

オンデマンドオフィス

自由に組み合わせて、自由に移動
どこでもオフィス

ワーク・ユニット

- ・ミーティングルーム、作業場
- ・コピー、プリンター、大型文具



ワーキングスペースユニット

リラックス・ユニット

- ・休憩室、食堂
- ・トイレ、給湯、素地場



サービスユニット

インフラ・ユニット

- ・発電、給電設備
- ・Wi-Fi 基地局、サーバー等



ワーキングスペースユニットとサービスユニットを組み合わせることにより、いつでもどこでも即席オフィスの完成
一定期間の出張サービスなどにも活用できる

新たなワーキングスタイルの可能性

オンデマンドファクトリー

ほしいものを、ほしい場所で作る
どこでもファクトリー

ワーク・ユニット

- ・ミーティングルーム
- ・アイデアワーク



デザイン・エンジニアリング ユニット

- ・デザインワーク
- ・CAD 設計



モデリング・ユニット

- ・3D プリンター
- ・切削、研磨機



インフラ・ユニット

- ・発電、給電設備
- ・Wi-Fi 基地局、サーバー等



デザイン・エンジニアリング・モデリングといったものづくり工程をそれぞれユニット化
必要なユニットを組み合わせ、
現地現物合わせでものづくり
を行う

おわりに

マイカーの価値の変化

IT化により…

- 人・モノの移動の必要性が減少 → クルマ VS スマホ
- サービスを受けるために移動 → サービスそのものが移動

CASEの時代にマイカーを持つ意味とは何なのか？

マイカーが潜在的に持っていた「空間」という価値に注目

マイカーを活用した新たなワークスタイル・ライフスタイルの可能性